

熊商人権だより

2020年4月23日



コロナウイルスと差別

コロナウイルスによってさまざまな差別が起きています。

医療現場に従事する人々やその家族に対する心ない言葉、感染者が立ち寄ったことを自主的に公表した施設への風評被害などが起こっています。コロナウイルスによって亡くなった方の遺族に対して心ない言葉を浴びせていることも起こっています。遺族は亡くなった方の顔も見られずに火葬されたことも皆さんは知っていることでしょう。そういう思いをもった遺族にそんな言葉をかけているのです。

これらの差別をなくす、防ぐために私たちに何ができるでしょうか？

過去にはハンセン病をはじめ、さまざまな疾病が偏見差別の対象となっています。

日本心理学会のホームページではアメリカ心理学会がホームページに掲載した「コロナウイルスに関する偏見差別をなくすために」を日本語に訳しています。そのなかからいくつかを紹介します。

・事実を伝えること

正しい知識を持つことが重要です。皆さんが得た知識は信頼できる機関からのものか、それともSNS上で不特定の人から伝わってきたものか判断することが大切です。

・感染経験者の声を広める

コロナウイルスに感染しても、ほとんどの人は回復します。感染して回復した人の声を広く共有することで感染者の思いに寄り添うことができます。医療従事者の方を皆でたたえることも偏見差別の防止につながります。

・根拠のない話、うわさ、ステレオタイプを正し、偏見を助長する言説に異議を唱える

私たちは偏見を助長する言説を正し、根拠のない話に異議を唱える責任があります。偏見差別を広げるようなうわさ話、ツイートなどをしない。そんな話には間違いだと発言していくことが大切です。

・民族の多様性を示す

感染予防のためにいろいろな人たちが協力しあう必要があります。いろいろな職業、さまざまな国、多様な社会的立場の人たちが協力しあって互いの健康に団結する姿を見せることが必要です。偏見や差別は多様性の軽視から生まれています。

ハンセン病でかつて私たちが学習したことがどれだけ浸透しているか、どれだけ「自分ごと」になっているのかこの時代で試されていると言えます。ハンセン病で学んだ教訓は何だったのか、いまいちど思いなおして、皆さんが正しい知識でこの病気を「正しく恐れ」、差別をなくす行動ができることを願っています。